

「解答例」

<p>選抜区分</p>	<p>2021（令和3）年度（選抜区分：一般選抜 後期日程） 外国語学部 中国学科（科目名：小論文）</p>
<p>問二（出題の意図）別紙</p>	<p>問一 ことばと暴力を考える際、インターネットを通じて誹謗中傷が一方的に際限なく拡大するという言語表現の問題があげられる。だがより深刻な局面がある。それはある共同体で特定の言語を話すことが価値を持つ、逆にいえばその言語を話すことが排他的に求められる局面である。これはその言語を話さない人々がある共同体に強制的に同化もしくはそこから排除することである。厄介なのはこうした暴力は、さまざまな表現で正当化され、その暴力性をみえなくさせていることである。またことばと暴力を考える際、社会の多言語性の認識の仕方も重要な要素となる。言語政策という形で管理する側は、多言語状況は混乱とみなし、単一な言語のもとで「正しく」この状況を管理しようとする。言語が、人間が使用し人間社会を支え動かすものである以上、言語を使用する側、使用される社会が種々のイデオロギーにまみれていれば、それが言語に反映されるのだ。（391字）</p>